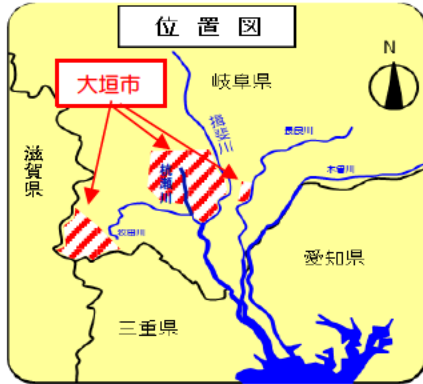


西南濃地域は「水の都」、その秘密は地質構造に有り！



野良の自噴水 昭和43年1月撮影 大垣市長沢町
出典：写真「輪中」より

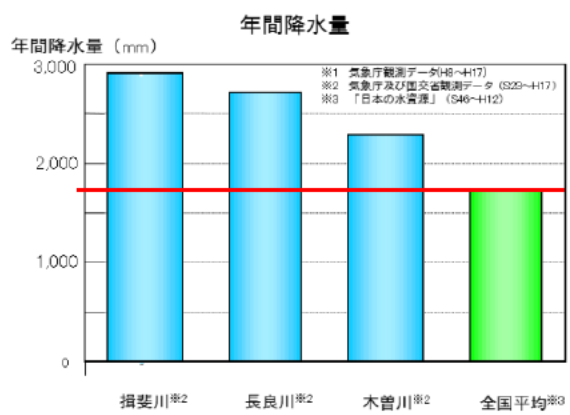


①大垣の自噴水

- 西南濃地方の中心都市である大垣市は、「水の都大垣」「水都大垣」と呼ばれ、人々は昔から水と深い繋がりをもって生活をしてきました。大垣が「水都」と呼ばれる理由は、この地方が豊富な「自噴水」に恵まれているからです。

②揖斐川流域は日本有数の多雨地域

- 濃尾平野を流れる木曾川流域（木曾川、長良川、揖斐川）は雨の多い地域で、中でも、揖斐川上流の山間部は日本有数の多雨地域です。山間部等で降った雨や地表水の一部は、地中に染み込み、地下に浸透しますが、揖斐川流域はその相対的な総量が多いと言えます。



③濃尾平野造盆地運動と地下水が充満する地質構造

- 濃尾平野では西部の地盤が沈降し、東部では隆起する地殻運動（濃尾平野造盆地運動）が現在でも続いており、この断層によってできた逆三角形の凹地へ、木曾川、長良川、揖斐川の三大河川によって運ばれてきた土砂が堆積し、今日の濃尾平野を形成しています。（図-1）

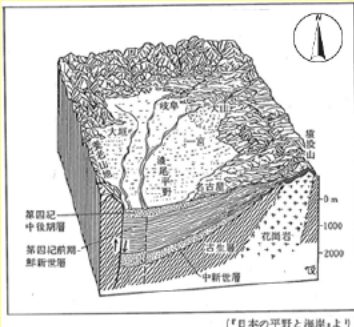


図-1 濃尾平野の鳥瞰と東西断面図
（『日本の平野と海岸』より）

- 土砂が堆積する過程の中で、砂層、礫層、粘土層など幾重にも積み重ねてきましたが、特に西南濃地域の地層は、礫層が分布し、地下水が充満する帯水層の役割を果たしています（図-2）。
- 大垣市を中心とした地域は最後まで海として残ったところで、そのため周辺部から地下水が流れ込むような地質構造をしており、最も地下水が豊富な地域となっています。

出典：「ふるさと 輪中と大垣」 大垣市教育委員会

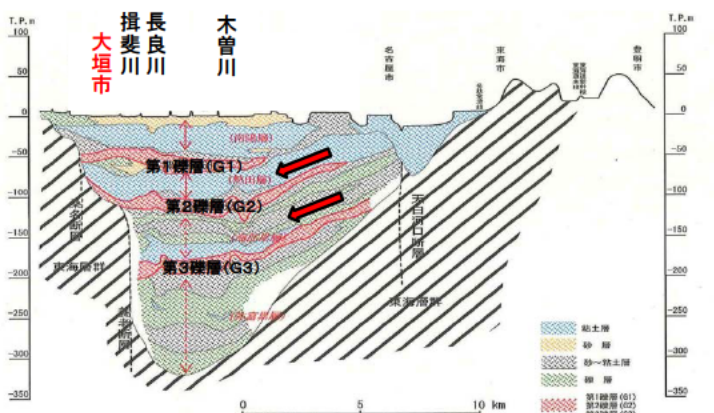
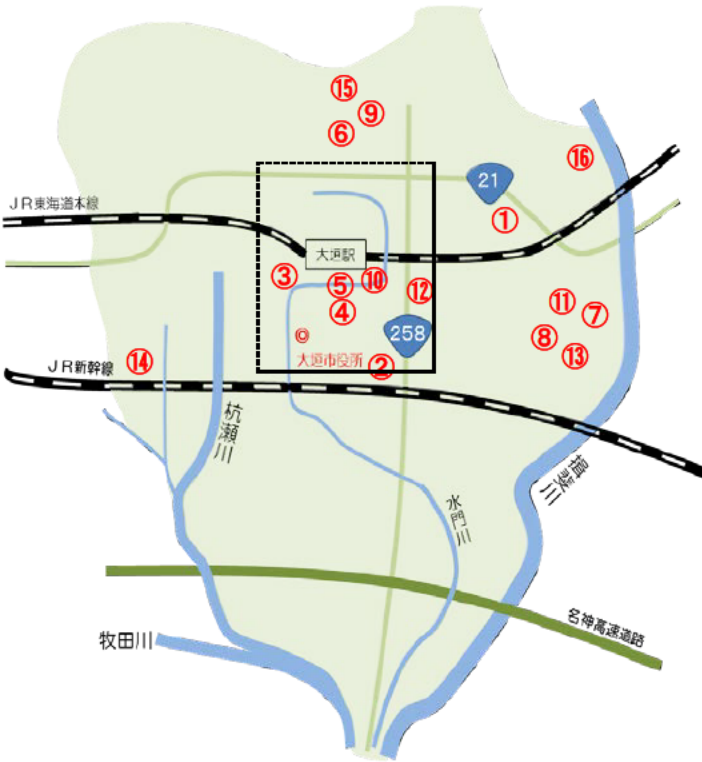


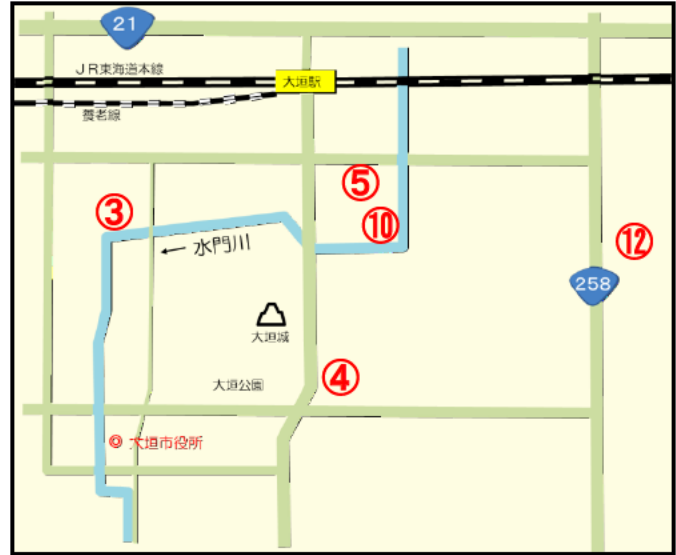
図-2 濃尾平野地層断面図

大垣市内の主な自噴水等マップ

【全体図】



【拡大図】



番号	井戸の名称や場所	自噴水	地下水の汲み上げ	備考
①	加賀野八幡神社井戸	○		昭和61年「岐阜県の名水」指定、平成20年環境省「平成の名水百選」に選定。地下136mから湧出し、ハリヨの生息場になっている。
②	春日神社「春日の宮湧き出する名水」	○		昭和37年に掘られた、地下201mから湧き出る自噴水
③	八幡神社 『大垣の湧水』	○		平成16年に整備された新しい自噴水。地下125mから湧出。
④	名水 大手いこ井の泉緑地	○		平成15年に整備された新しい自噴水。地下138mから湧出。
⑤	高屋稲荷神社		○	大垣駅前にあった「亀の池」に代わる井戸として高屋町住民により建設された井戸。
⑥	大垣女子短期大学 『みずきの森水』		○	井戸水のせせらぎを設けた庭園「みずきの郷」の一郭に設置。
⑦	大垣フォーラムホテル 『幸福の泉』	○		地下147mから湧き出る自噴水。
⑧	白髭神社	○		池の底から水が湧き出る自噴水。
⑨	西之川ハリヨの池広場	○		岐阜県希少動物レッドデータに指定されている「ハリヨ」の生息地
⑩	栗屋公園	○		平成17年に整備された新しい自噴水のある公園
⑪	三城公園	○		地下水を利用した公園
⑫	藤江町まちかどオアシス	○		平成13年頃、ポンプで汲み上げていた井戸から自然に水が湧き出たもの。
⑬	金蝶園総本家大垣東店 『菓生の泉』	○		平成17年に整備された新しい自噴水。地下150mから湧出。
⑭	弘法の井戸広場	○		平成21年に既設の自噴井戸を改修し、自噴広場を整備。地下16mから湧き出る湧水。
⑮	北方町がま広場	○		大垣市内で唯一、「ガマ（河間）」の姿を残した湧水で、平成22年に保全整備。
⑯	(株)イビコン 『創造の泉』	○		平成22年に整備された新しい自噴水。地下148mから湧出。

出典 : わくわく湧き水マップ ~湧き水紹介~ (大垣市生活環境部)

※自噴水等の代表箇所を、別紙写真にて紹介します。(写真は平成26年1月撮影)

①加賀野八幡神社井戸



②春日神社
「春日の宮湧き出する名水」



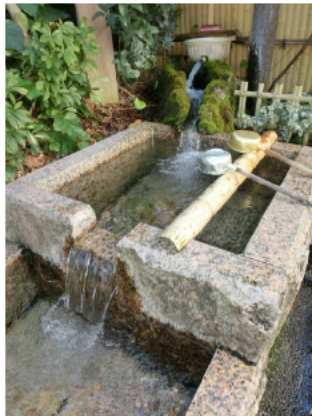
③八幡神社『大垣の湧水』



④名水 大手いこ井の泉緑地



⑤高屋稲荷神社



⑥大垣女子短期大学
『みずきの森水』



⑧白髭神社



⑨西之川ハリヨの池広場



⑩栗屋公園



⑬金蝶園総本家大垣東店
『葉生の泉』



⑭弘法の井戸広場



⑯(株)イビコン『創造の泉』

